2027年3月期　中間期
決算短信補足資料

2026/11/6

株式会社ニッスイ

© Nissui All Rights Reserved.

日水物流株式会社の委託先におけるシステム障害について

10月7日、日水物流が利用する委託先データセンターが第三者による不正アクセスを受け、日水物流の入出荷業務が一時的に停止。10月9日から一部再開し、10月20日から全拠点で通常稼働。

発生経緯 （10月7日）	✓ 日水物流の委託先である株式会社IDCフロンティアが第三者による不正アクセスを受け、 システム障害が発生。
影響	✓ 日水物流の全拠点で商品の入出荷業務が停止。 ✓ 被害を受けたサーバーに、ニッスイグループが管理する個人情報・顧客情報は含まれていないことを確認。 ✓ システム障害による下期影響額は、売上高・営業利益それぞれ約▲2億円弱と試算。
対応・対策	✓ 10月9日、一部の入出荷業務を再開。 ✓ 委託先であったIDCフロンティア以外のサーバーを使用した新システムを構築。 ✓ 10月20日から全拠点で通常稼働。

© Nissui All Rights Reserved.

決算ハイライト

2027年3月期 中間期実績:

- 売上高・営業利益ともに中間期として過去最高を更新。
- 水産事業における漁業・商事の好調、ファインケミカル事業の販売堅調などにより増収・増益。
- 食品事業は価格改定を進めたものの、原料高や国内の販売数量減などにより減益。
- (株主還元)中間配当は計画通り2円増配の16円。

売上高	営業利益
5,067 億円 前年同期比+11.9%	211 億円 前年同期比+7.0%

2027年3月期 通期業績予想: 変更なし

売上高	営業利益
10,000 億円 変更なし	425 億円 変更なし

※本資料に記載の数値は、表示単位未満を切り捨てて表示
※増減額は千円単位未満を切り捨てて算出しており、増減率は四捨五入により表示

© Nissui All Rights Reserved.



TABLE OF

CONTENTS

01 2027年3月期 中間期 決算概況 P 5～16

02 今後の見通し・取り組み P17～26

03 参考資料 P27～37

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　決算概況

2027年3月期 中間期　サマリー

売上高・営業利益ともに中間期として過去最高を更新。南米養殖への投資に伴う借入金増加や金利上昇により支払利息が増加し、経常利益・中間純利益は減少。

	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	4,529 億円	5,067 億円	537 億円	11.9	10,000 億円	50.7
営業利益	197 億円	211 億円	13 億円	7.0	425 億円	49.8
経常利益	212 億円	204 億円	▲7 億円	▲3.6	430 億円	47.5
親会社株主に帰属する中間純利益	142 億円	135 億円	▲7 億円	▲5.1	290 億円	46.8

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメント別概況

水産事業における漁業・商事の好調、ファインケミカル事業の販売堅調などにより増収・増益。
食品事業は価格改定を進めたものの、原料高や国内の販売数量減などにより減益。

（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	**4,529**	**5,067**	**537**	**11.9**	**10,000**	**50.7**
水産事業	1,788	2,140	352	19.7	4,224	50.7
食品事業	2,517	2,691	173	6.9	5,256	51.2
ファインケミカル事業	71	81	10	14.5	174	46.8
物流事業	83	87	4	5.1	177	49.6
その他	68	66	▲2	▲3.2	169	39.4
営業利益	**197**	**211**	**13**	**7.0**	**425**	**49.8**
水産事業	60	85	24	40.8	219	39.1
食品事業	168	153	▲15	▲8.9	275	55.7
ファインケミカル事業	1	10	8	482.5	18	55.0
物流事業	12	11	▲0	▲3.5	26	46.0
その他	3	4	0	21.5	1	280.5
全社経費	▲48	▲53	▲4	9.6	▲115	46.5
経常利益	**212**	**204**	**▲7**	**▲3.6**	**430**	**47.5**
親会社株主に帰属する中間純利益	**142**	**135**	**▲7**	**▲5.1**	**290**	**46.8**

＜売上高為替影響額＞
合計 +約234億円
水産 +約126億円
食品 +約108億円

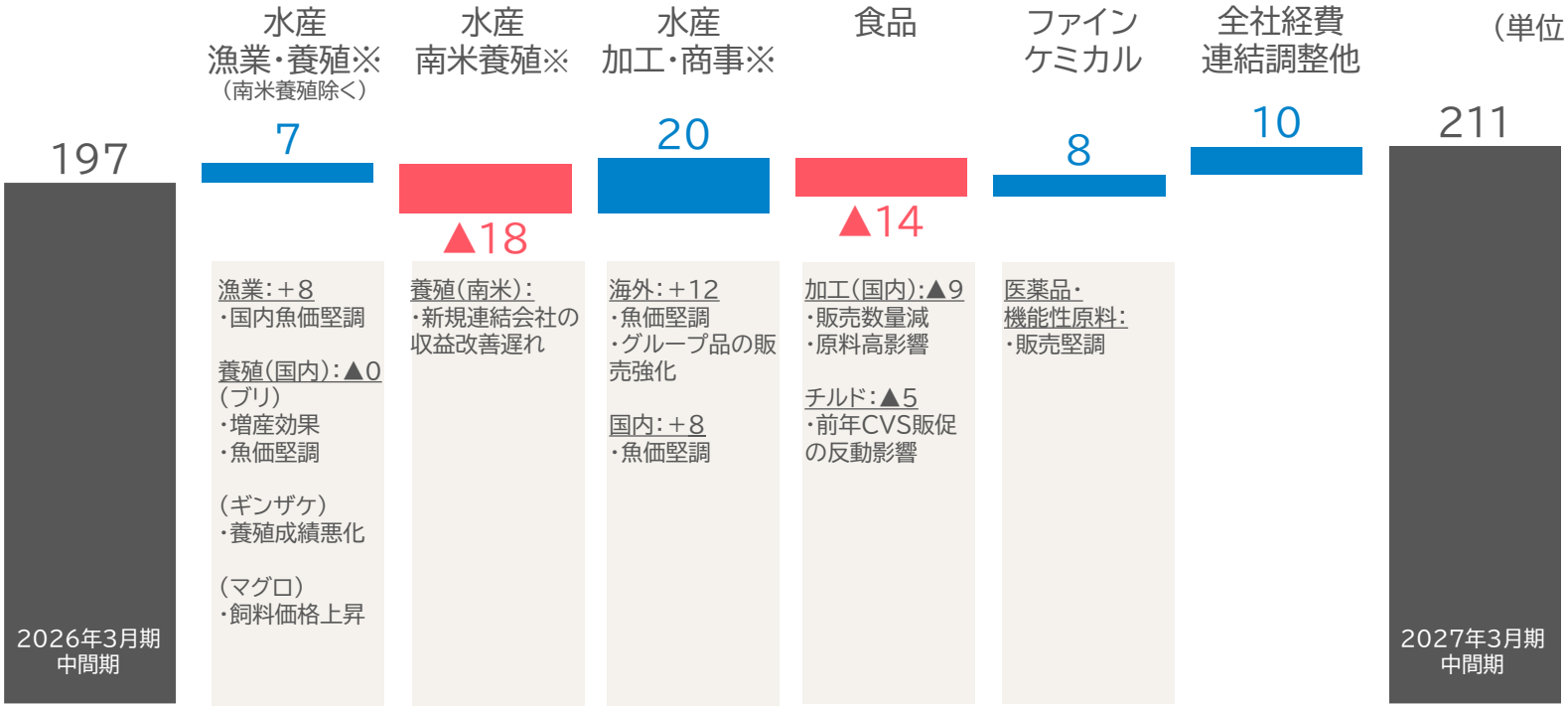
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　主な営業利益増減要因(前年同期比)

国内漁業、水産加工・商事、ファインケミカル事業が牽引し、食品事業の原料高や国内の販売数量減、新規連結した南米養殖会社の収益改善遅れをカバーしたことで、連結全体は増益。

※2027年3月期 中間期より、未実現利益の調整を除外した数値に基づき作成。従来のフォーマットは参考資料として添付。

(単位:億円)



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　連結貸借対照表(前期末比)

食品工場への成長投資や養殖事業拡大による運転資本増に伴い、総資産は380億円増加。有利子負債も増加したことで、ネットD/Eレシオは目標レンジ(0.7～0.8)を上回る0.9となった。

総資産	自己資本比率	ネットD/Eレシオ
7,875億円	39.8%	0.9
前期末比 +380億円	前期末比 ▲0.2 pt	前期末比 +0.1

(単位:億円)		2026年3月期末	2027年3月期 中間期	増減
資産		7,495	7,875	380
	流動資産	※3,769	3,985	216
	固定資産	※3,725	3,889	163
負債		4,395	4,633	237
	流動負債	2,764	2,743	▲ 20
	固定負債	1,631	1,889	258
純資産		3,099	3,242	142
	株主資本	2,360	2,443	82

※前期数値の遡及修正について
Yadran社の取得原価が確定したことに伴い、前期末の数値について遡及修正している。

(単位:億円)	2026年3月期末		
	遡及適用前	遡及適用後	増減
流動資産	3,760	3,769	8
固定資産	3,734	3,725	▲8

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　連結キャッシュ・フロー（前年同期比）

取得した南米養殖会社の長期買掛金を計画通り返済したことで、FCFは一時的に悪化。運転資本管理や南米養殖会社の早期収益改善による営業CF水準の向上を図る。

（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減	主な増減要因
税金等調整前中間純利益	210	212	1	―
減価償却費（のれん償却※含む）	129	158	28	・設備投資の増加に伴い増加
運転資本	▲ 112	▲ 229	▲ 116	・南米養殖会社などの生産拡大に伴う棚卸資産増 ・南米養殖会社の取得による長期買掛金返済
利息の支払額	▲ 12	▲ 39	▲ 26	・南米養殖会社などの借入金増加、国内金利上昇
法人税等の支払額	▲ 42	▲ 81	▲ 39	・前期業績好調による支払増など
営業CF	165	▲ 15	▲ 181	―
投資CF	▲ 256	▲ 239	16	・投資有価証券の売却による収入など
FCF（フリー・キャッシュ・フロー）	▲ 90	▲ 255	▲ 165	―
財務CF	144	191	47	・前期実施した自己株式の取得による支出の反動など
※参考：のれん償却費用	2	3	0	―

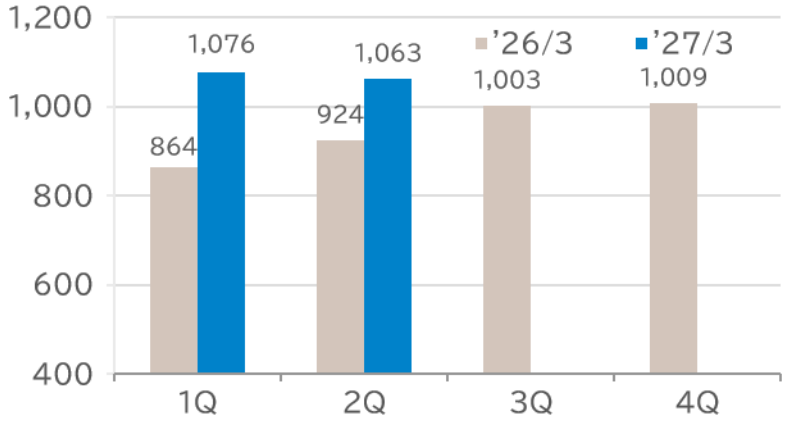
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益（前年同期比）

売上高は南米養殖会社の新規連結効果や北米商事の好調により増加。営業利益は南米養殖の収益改善遅れの影響があったものの、国内漁業や加工・商事が牽引し増加。

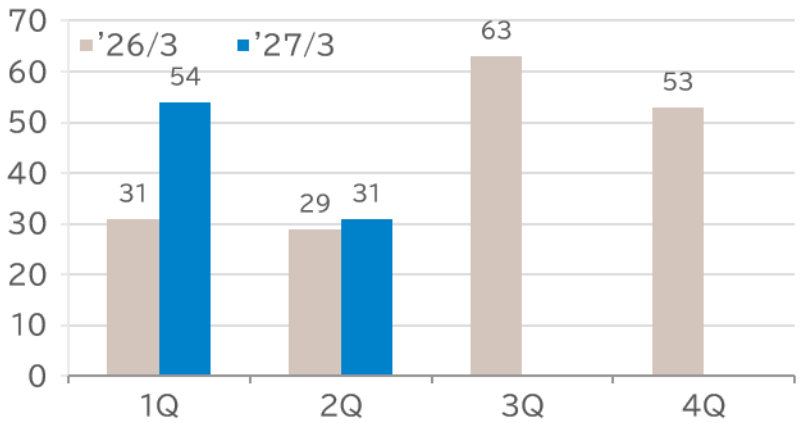
（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	1,788	2,140	352	19.7	4,224	50.7
営業利益	60	85	24	40.8	219	39.1

売上高（四半期別）



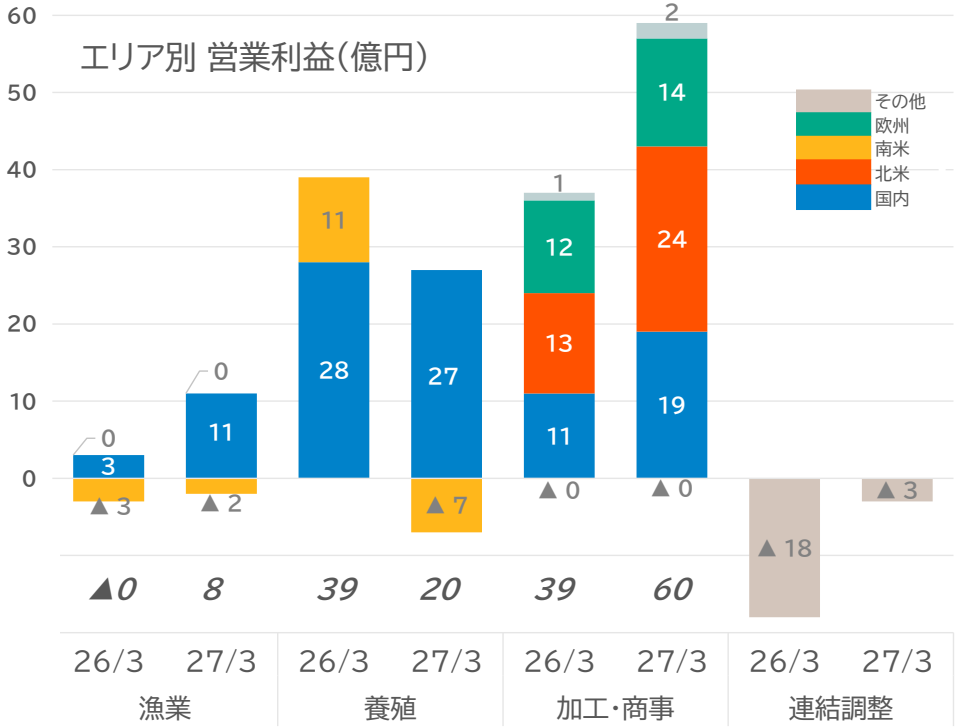
営業利益（四半期別）

（単位：億円）



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益（前年同期比）



売上高	99	133	404	634	1,820	2,023

営業利益の増減要因

漁業：増益（＋8億円）

- 【国内】アジ・サバの好調な漁獲に加え、販売価格が上昇。

養殖：減益（▲19億円）

- 【国内】ブリは販売堅調。マグロは飼料価格上昇、ギンザケは購入種苗の品質を起因とした一部漁場での養殖成績悪化の影響を受ける。
- 【南米】新規連結子会社の収益改善遅れにより減益。

加工・商事：増益（＋20億円）

- 【国内】ブリ・水産食材の販売数量が増加し、鮭鱒・魚油・すり身の販売価格が上昇。
- 【北米】マダラの販売価格が上昇。加工は高水準のフィレ生産比率を維持、商事は鮭鱒の販売数量が増加。
- 【欧州】商事では事業者向け原料販売などが堅調に推移。

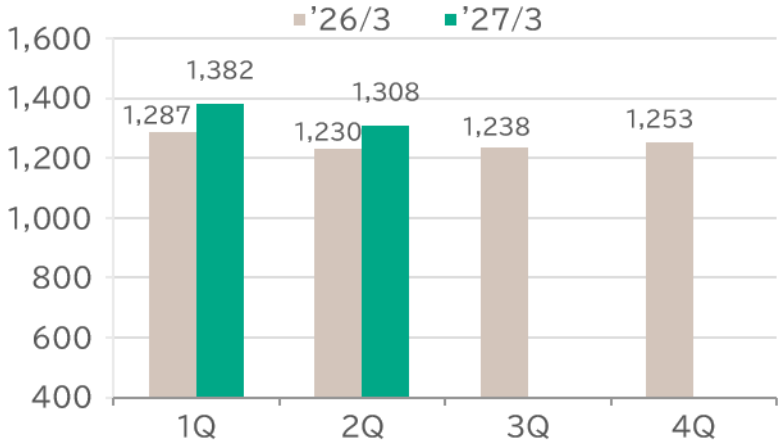
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益（前年同期比）

売上高は価格改定効果に加え、為替換算影響もあり増加。営業利益は為替影響を含む原料高の影響や国内の販売数量減、チルドの前年CVS販促の反動により減少。

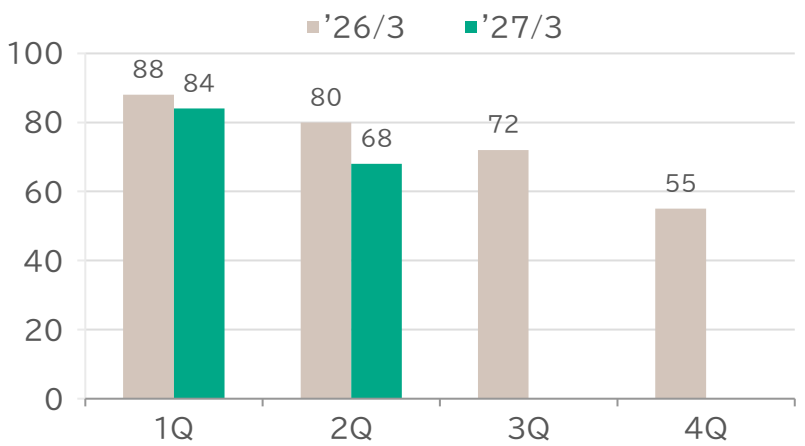
（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年 同期比増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	2,517	2,691	173	6.9	5,256	51.2
営業利益	168	153	▲15	▲8.9	275	55.7

売上高（四半期別）



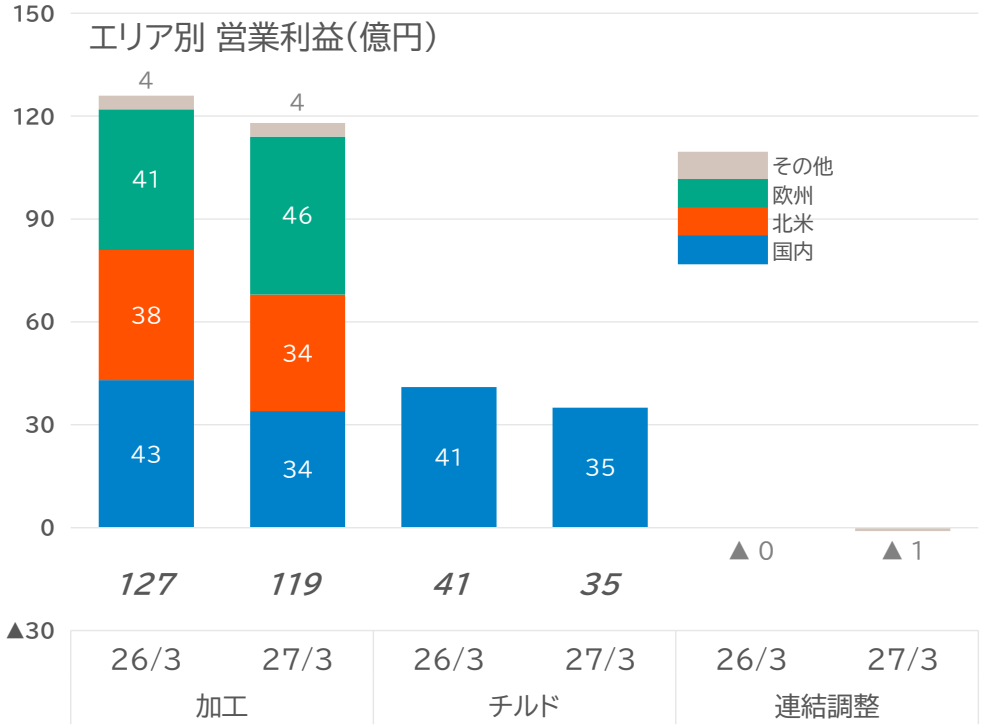
営業利益（四半期別）

（単位：億円）



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益（前年同期比）



売上高	2,035	2,231	661	648

営業利益の増減要因

加工：減益（▲8億円）

- 【欧州】家庭用は工場増設に伴う減価償却費増加や原料価格上昇の影響を受ける。業務用は販売堅調。
- 【北米】家庭用はクラブストア向けなどの販売堅調も、新工場の減価償却費が増加したことに加えて、原料価格が上昇。業務用は原料価格が上昇。
- 【国内】価格改定後の販売数量減や、為替影響、すり身原料価格上昇の影響を受ける。

チルド：減益（▲5億円）

- 前年度コンビニエンスストアの販売促進施策の反動。

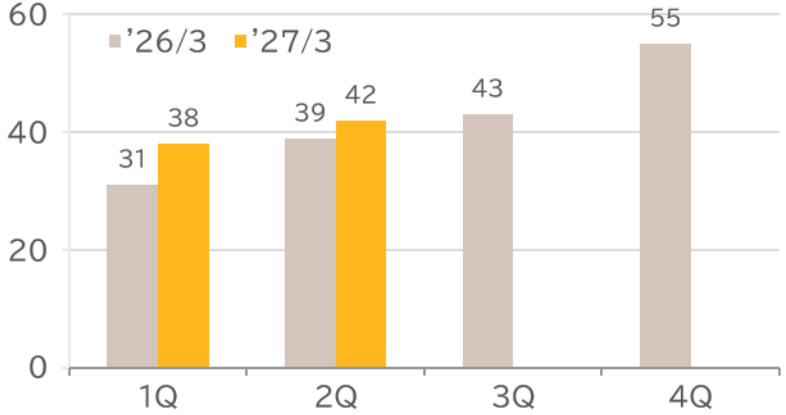
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　ファインケミカル事業　売上高・営業利益(前年同期比)

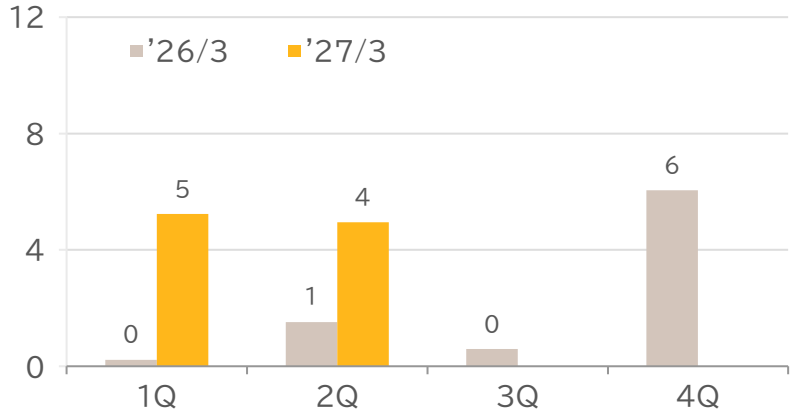
医薬品原料や機能性原料の販売が堅調に推移し、増収・増益。

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年 同期比増減	増減率 (%)	2027年3月期 修正計画 (8月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	71	81	10	14.5	174	46.8
営業利益	1	10	8	482.5	18	55.0

売上高(四半期別)



営業利益(四半期別)　(単位:億円)

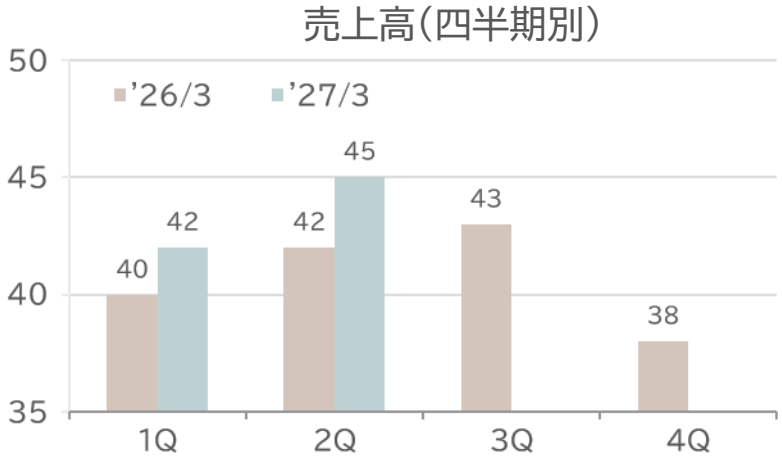


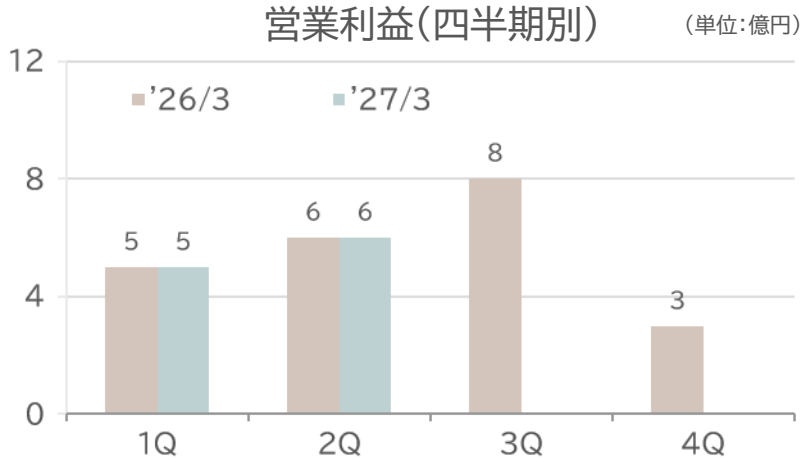
© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　物流事業　売上高・営業利益（前年同期比）

輸送・保管需要の取り込みや価格改定効果などにより増収。人件費の上昇などによるコスト増の影響を受け、営業利益は前年並み。

（単位：億円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	対前年同期比増減	増減率（%）	2027年3月期 修正計画（8月発表）	計画進捗率（%）
売上高	83	87	4	5.1	177	49.6
営業利益	12	11	▲0	▲3.5	26	46.0





© Nissui All Rights Reserved.

今後の見通し・取り組み



重点項目：南米養殖事業（Yadran社）

買収後の養殖管理強化や低酸素対策の効果が現れ、養殖成績は改善傾向。4Qは魚体サイズ改善や原魚コスト低減により、事業損益の黒字化を見込む。中長期的な収益力向上による成長を目指す。

▶今期：足元の課題・対応状況

課題
・一部の生け簀で魚病・低酸素が発生し、養殖成績が悪化
→原魚コスト上昇、魚体の小型化による製品構成悪化

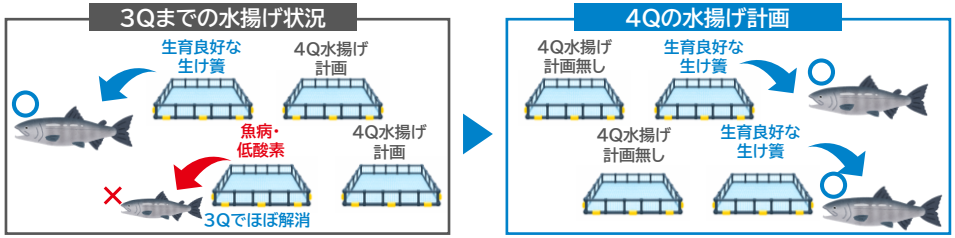
対応
・魚病管理・監視体制を強化
・酸素供給装置を稼働



3Qから稼働する酸素供給装置
（参考イメージ）

状況
・低酸素環境はほぼ解消
・魚体サイズ改善、生残率・原魚コスト改善を見込む
・4Qは良好な生け簀からの水揚が増加予定

4Q 事業損益の黒字化を見込む。



▶来期以降：正常化・SA社とのシナジーによる成長

― 生産・オペレーションの正常化
魚病管理の徹底、酸素供給の完備、飼料コスト低減、業務の内製化などを推進。

― SA社とのシナジー創出
加工場・淡水養殖場の相互活用推進。共同購買や魚種・漁場の特性を踏まえた生産・加工最適化によりコスト低減と収益性向上。

― 中長期の収益拡大
新設淡水養殖場による種苗供給力の強化、増産・高付加価値品拡大・販売エリア開拓。



生鮮サーモンのスキンパックポーション、サーモンミニョン等の付加価値商品も生産


建設中の淡水養殖場

© Nissui All Rights Reserved.

エルニーニョ現象による事業への影響と対応

魚油・魚粉価格の上昇によるコストアップ影響は2027年度に本格化する見通し。価格改定や飼料の配合変更、調達エリア分散などにより、影響の吸収を図る。

	想定される主な影響	対応策
【直接的な影響】		
水産	・(商事)魚油・魚粉調達価格上昇 ・(養殖)飼料価格上昇	・(全体)価格改定により影響の吸収を図る ・(商事)魚粉の調達エリア分散 ・(養殖)飼料の配合変更によるコスト低減
ファインケミカル	・魚油供給量減少による調達懸念 ・魚油調達コストの上昇	・魚油調達エリアの拡大 ・価格改定により影響の吸収を図る

(現状の試算) ※影響可能性額および対策効果は現時点での予測に基づいて試算しており、今後の動向により変動する可能性がある。
・2026年度はコストアップ影響可能性額▲40億円、対策効果＋30億円、営業利益▲10億円弱のネット影響を織り込む。
・2027年度はコストアップ影響可能性額▲90億円、対策効果＋75億円、営業利益▲15億円のネット影響を見込む。

【間接的な影響】		
食品	・アジアですり身より魚粉の生産量が増えることで、すり身の価格上昇	・調達エリア分散・代替原料の活用 ・価格改定や規格変更

© Nissui All Rights Reserved.

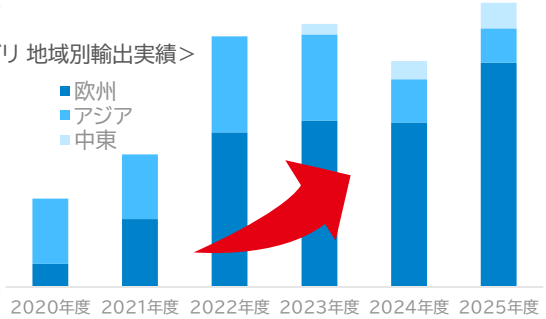
今後の取り組み： 水産事業

国内養殖の販売拡大・生産性向上に加え、加工・商事における高付加価値商品の生産・販売拡大を進め、持続的な成長を実現する。

▶（国内養殖）生産基盤強化・グローバル販売

ー（ブリ）供給体制の強化を通じて、欧州に加え、アジア市場への販売拡大を推進。





ー（ギンザケ）フィードバージ船の導入による給餌作業の自動化・効率化を通じて、生産基盤の強化を図る。

導入した
フィードバージ船



▶（国内商事）高付加価値化

ー 国内商事は、グループ養殖会社の生鮮品など高付加価値商品の拡充により、収益性の向上を図る。





▶（北米加工・南米漁業）収支改善・体質強化

ー（北米加工）スケソウダラのフィレ比率向上など高付加価値化施策を推進し、収益性向上を図る。

ー（南米漁業）船舶売却による引渡しは完了。

© Nissui All Rights Reserved.

今後の取り組み： 食品事業

北米新工場と欧州の増設工場の稼働、国内新工場の建設、価格改定などを着実に推進し、中長期的な収益力を強化。

▶（欧米）生産増強による効果

ー 工場の生産増強による販売拡大により、来期から利益への貢献を見込む。2030年度には、欧米2社の2025年度営業利益（合計約115億円）の約25%に相当する増益効果を計画。
ー 欧州では配送効率化や包装工程の自動化、北米では生産拠点の最適化による配送コスト削減などにより、収益性を向上。





北米：新設した工場の本格稼働開始（26年8月から）　欧州：増設した工場の生産開始（26年4月から）

▶（国内）生産増強・スマートファクトリー化

ー 生産拡大と工場の再編を目的に新工場を建設。生産ライン集約・自動化による省人化・生産性向上。
ー 生産性向上や省エネ化によるコスト削減、供給能力拡大により収益基盤の強化を図る。



▶ コストアップに対する打ち手

ー 原料価格上昇などに伴い、価格改定を進める。
ー 個食・簡便などの消費者ニーズに対応する商品や高付加価値商品の提案を強化。





ー 特定保健用食品や減塩など健康領域商品の拡大による収益性向上を図る。



特定保健用食品



減塩商品

© Nissui All Rights Reserved.

今後の取り組み： ファインケミカル事業

来期以降エルニーニョ現象の影響を見込むも、原料調達の多様化による影響軽減に加えて、医薬品原料の販売拡大による収益性向上を図る。

▶ 原料調達リスクへの対応

－2026年度は必要な在庫を確保しており、業績影響は無し。
－魚油の供給減少や調達価格の上昇に対して、調達先・調達地域の多様化を推進。
　価格改定などによりコスト増を吸収し、安定調達と収益性の確保を図る。

▶（医薬品原料）販売拡大

日本



－ 持田製薬エパデールのAG（※）のさらなるシェア拡大に期待。

※AG：オーソライズドジェネリック。
先発医薬品メーカーから許諾を得て、製造・販売されるジェネリック医薬品

北米



－ アマリン社が先発品シェアを維持。在庫量水準の正常化に伴い、原料購買の安定化に期待。

欧州



－ アマリン社は計11ヶ国（※）に展開。更なる拡大に期待。

※2026年10月28日時点

アジア他



－ 持田製薬がエパデールの新薬承認を取得したタイ・ベトナムでの販売拡大、中国での販売実現に加えて、その他の国々への申請承認の拡大を期待。

© Nissui All Rights Reserved.

今後の取り組み： サステナビリティ

持続可能な水産資源の利用に向け、認証商品の展開や漁業改善プロジェクトへの参画など、事業活動と連動した取り組みを推進

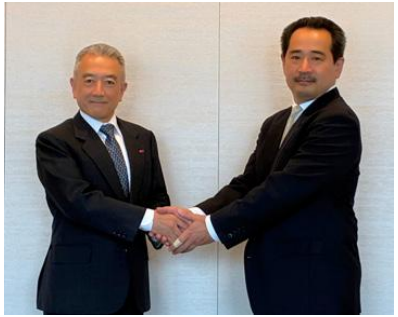
「MSCジャパン・アワード 2026」メーカー部門を受賞
アワード創設以来、3年連続で選出



一般社団法人MSCジャパン プログラム・ディレクター 石井 氏(左)と当社サステナビリティ推進部長 西 (右)

- MSCは、持続可能な漁業を推進する国際的な非営利団体。
- ニッスイは、ちくわやフィッシュソーセージなどのMSC認証商品を展開。認証商品の販売実績など、持続可能な水産資源の利用に向けた取り組みが評価された。

インドにおけるすり身原料魚FIP(漁業改善プロジェクト)への参画



公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン) 事務局長 東梅氏(右)と当社COO 浅井(左)



インドの漁港で水揚げされたイトヨリダイ
© WWF-India

- インド産すり身原料魚は、資源状態を適切に評価するための情報が十分ではなく、持続可能な利用に向けた課題がある。
- WWFジャパン、WWFインド、現地のすり身加工メーカーなどと連携し、資源状態の把握や漁業管理体制の整備を進め、漁業の持続可能性向上と原料調達の安定化を目指す。

© Nissui All Rights Reserved.

今後の取り組み： 経営の重点課題

成長投資の収益化と既存事業の収益力強化を進め、キャッシュ創出力・資本効率の向上を図る。

▶ 成長投資の収益化

― 南米養殖事業の収益改善、欧米食品工場の稼働率・生産性向上、国内新工場の立ち上げ効果の実現を通じて、収益化を図る。

▶ 既存事業の収益性向上

― 高付加価値商品の拡充や価格改定、生産性向上に加え、低収益事業の収益構造改革を推進し、収益性向上を図る。

▶ キャッシュ創出力の強化

― 在庫・運転資本の効率化による営業キャッシュ・フローの改善と、投資効果の早期実現によるキャッシュ創出力の強化を図る。

▶ 資本効率を重視した経営

― ROICや投資採算を重視した経営資源の配分と投資後の効果検証を徹底し、成長投資と財務健全性の両立を図る。

バリューチェーン強靭化・資本効率の向上を通じて、
長期ビジョン「GOOD FOODS 2030」の実現を図る。

© Nissui All Rights Reserved.



GLOBAL LINKS

© Nissui All Rights Reserved.

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況及び製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

nissui

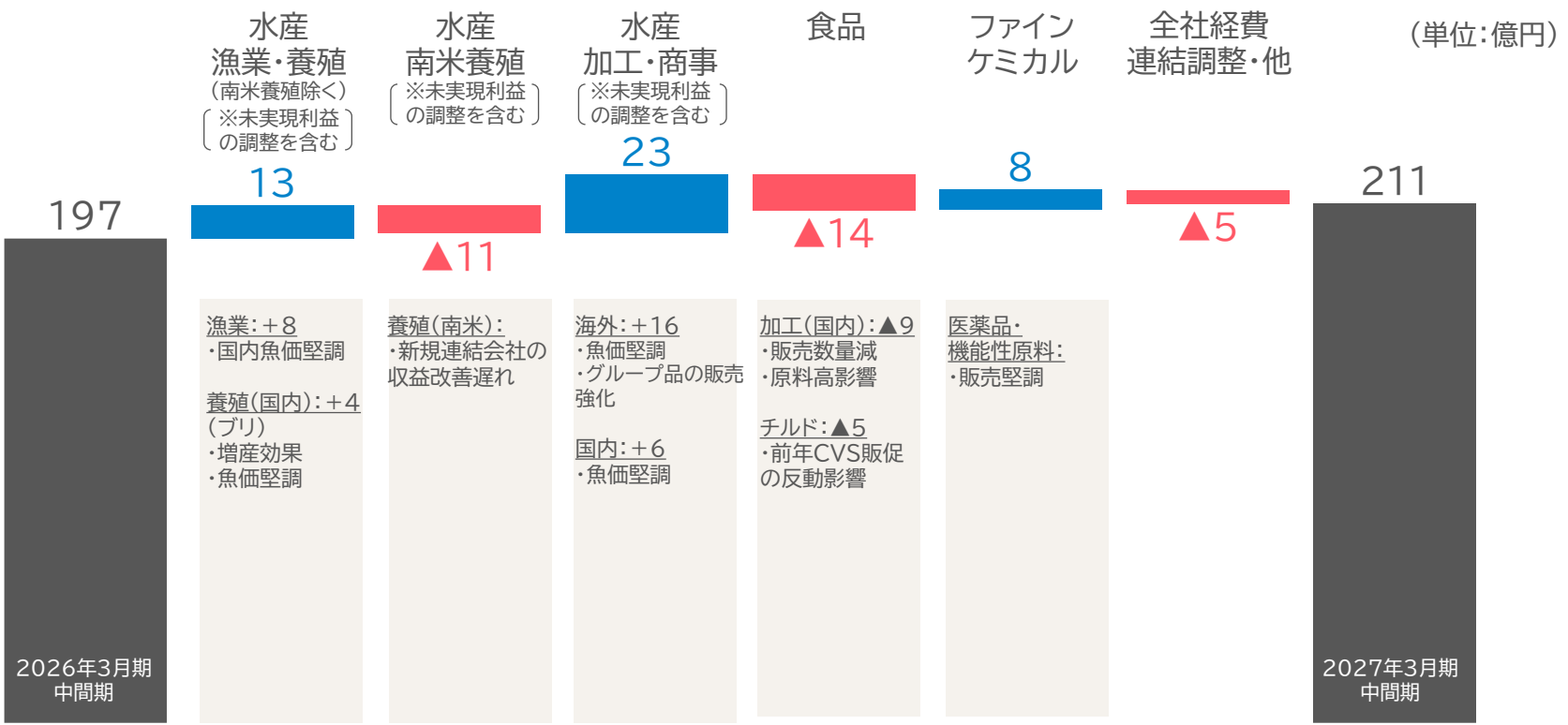
まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332
お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037
https://www.nissui.co.jp/ir/index.html

© Nissui All Rights Reserved.

参考資料

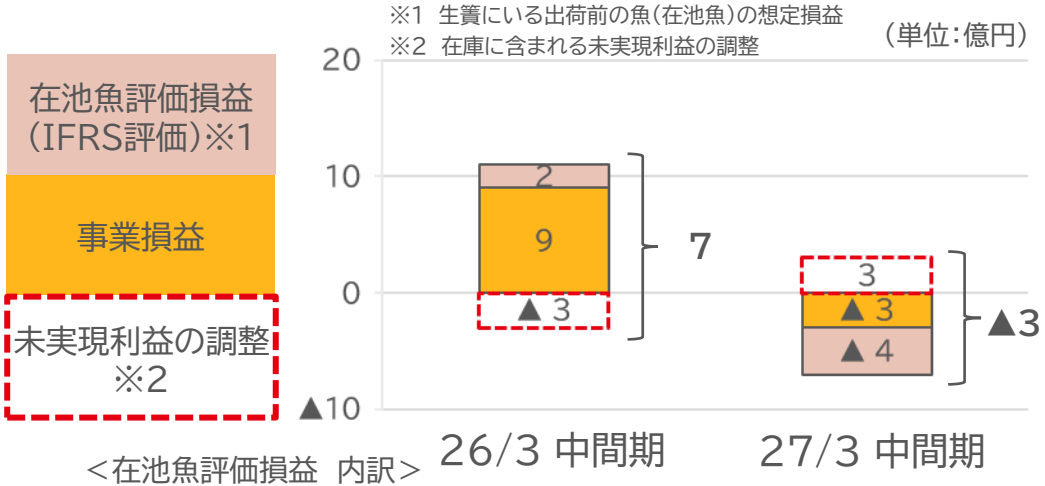
2027年3月期 中間期　主な営業利益増減要因(前年同期比)　※未実現利益の調整を含む



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　南米鮭鱒養殖について

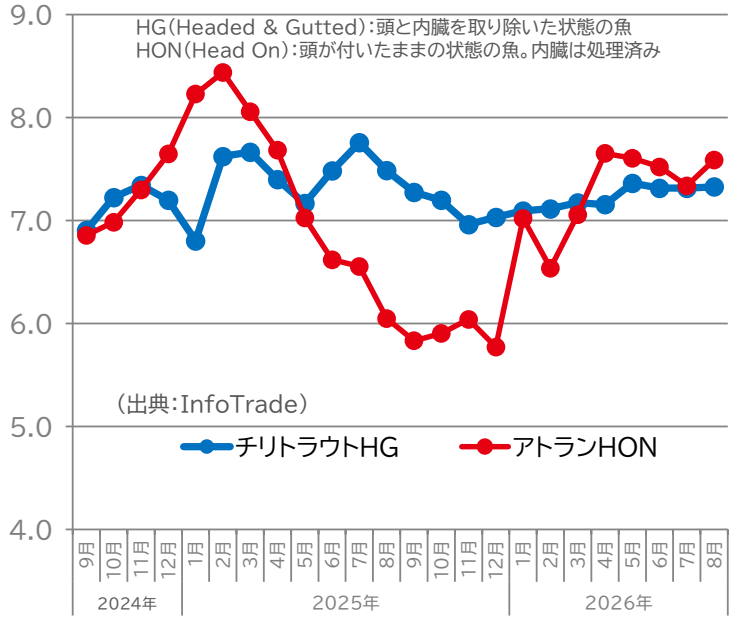
※1　生簀にいる出荷前の魚(在池魚)の想定損益
※2　在庫に含まれる未実現利益の調整



＜在池魚評価損益　内訳＞

(単位:億円)	26/3 中間期 SA社	27/3 中間期 SA社･Yadran社計
期首戻入額	▲3	4
期末評価損益	6	▲8
在池魚評価損益	2	▲4

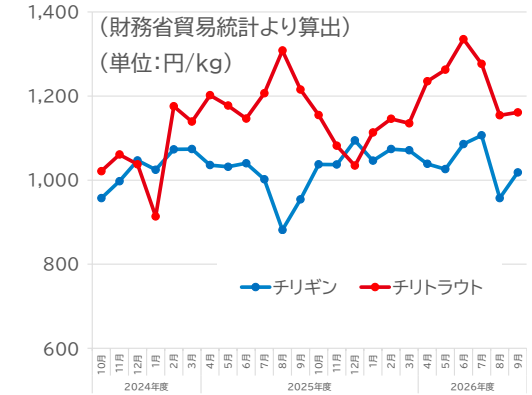
チリ産トラウトHG･アトランHON相場推移
(単位:USD/kg)



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　参考資料

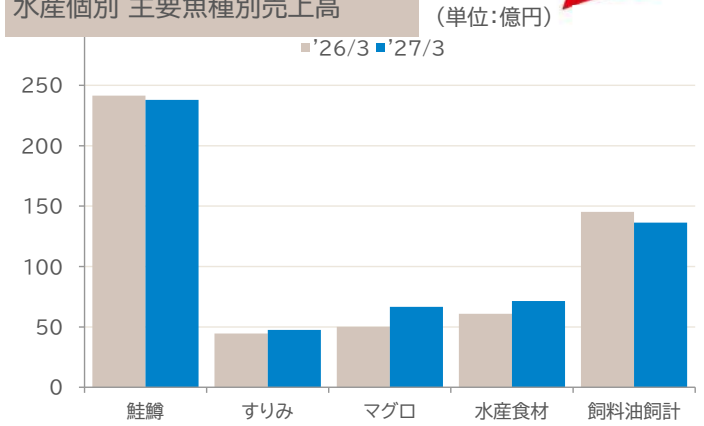
輸入価格推移　鮭鱒



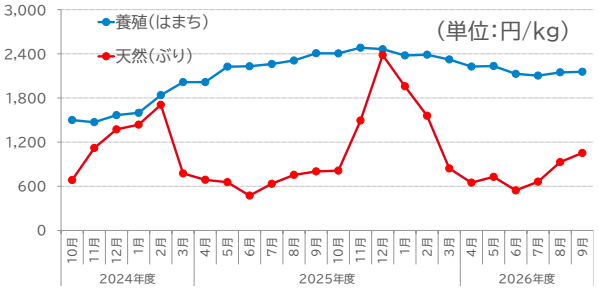
輸入価格推移　冷凍すり身



水産個別 主要魚種別売上高

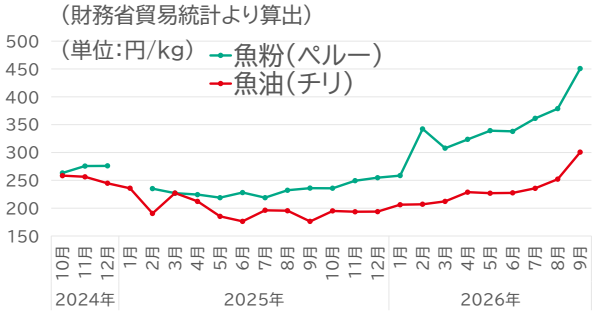


国内水産物市況　ブリ

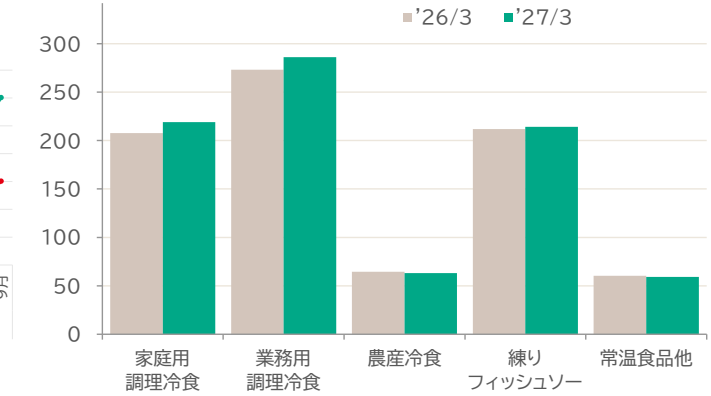


出典:東京都中央卸売市場のデータを加工して作成(鮮魚)
天然:「ぶり」の平均価格、養殖:「はまち(養殖)」の平均価格

輸入価格推移　魚油・魚粉



食品個別 カテゴリー別売上高



© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減	主な増減要因
売上高	**4,529**	**5,067**	**537**	
売上総利益	**744**	**812**	**68**	
販売費・一般管理費	546	600	54	
営業利益	**197**	**211**	**13**	
営業外収益	29	31	1	
営業外費用	15	38	23	支払利息+20
経常利益	**212**	**204**	**▲7**	
特別利益	4	25	21	投資有価証券売却益+25
特別損失	5	18	12	
税金等調整前中間純利益	**210**	**212**	**1**	
法人税等	60	73	12	
法人税等調整額	▲4	▲8	▲4	
中間純利益	**154**	**147**	**▲7**	
非支配株主に帰属する中間純利益	11	11	0	
親会社株主に帰属する中間純利益	**142**	**135**	**▲7**	

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 為替換算による影響額(売上高:連結調整前)

	2026年3月期 中間期		2027年3月期 中間期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	売上高 増減影響	為替影響
USD(百万ドル)	813	1,202	1,003	1,588	189	386	281	104
EUR(百万ユーロ)	234	379	239	441	5	62	8	54
DKK(百万クローネ)	1,780	387	1,806	447	26	59	5	53
その他通貨	―	215	―	255	―	40	17	22
計		2,185		2,733		548	313	234

【参考:為替レート】
※右表の為替レートは
各四半期の平均

	2027年3月期 Q1	2027年3月期 Q2
USD	156.45 円	160.72 円
EUR	183.53 円	186.13 円
DKK	24.56 円	24.90 円

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	1,312 *(89)*	540 *(112)*	380 *(194)*	518 *(68)*	38 *(2)*	2,791 *(466)*	▲650 *(▲114)*	2,140 *(352)*
	1,223	428	186	450	36	2,325	▲536	1,788
食品事業	1,626 *(12)*	666 *(79)*		514 *(78)*	72 *(13)*	2,879 *(182)*	▲188 *(▲9)*	2,691 *(173)*
	1,614	587		436	59	2,697	▲179	2,517
ファイン 事業	95 *(11)*					95 *(11)*	▲13 *(0)*	81 *(10)*
	84					84	▲13	71
物流事業	175 *(9)*					175 *(9)*	▲88 *(▲6)*	87 *(4)*
	166					166	▲82	83
その他 事業	82 *(▲13)*				1 *(0)*	84 *(▲12)*	▲17 *(11)*	66 *(▲2)*
	95				1	96	▲28	68
仮計	3,293 *(109)*	1,206 *(191)*	380 *(194)*	1,033 *(147)*	112 *(15)*	6,026 *(657)*		
	3,184	1,015	186	886	97	5,369		
連結調整	▲528 *(▲19)*	▲135 *(▲3)*	▲210 *(▲83)*	▲9 *(▲2)*	▲75 *(▲12)*		▲959 *(▲119)*	
	▲509	▲132	▲127	▲7	▲63		▲840	
連結 計	2,764 *(90)*	1,071 *(189)*	170 *(112)*	1,023 *(145)*	37 *(3)*			5,067 *(537)*
	2,674	882	58	878	34			4,529

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	58 (14)	24 (10)	▲10 (▲18)	14 (1)	2 (0)		88 (9)	▲3 (15)	85 (24)	4.0 (0.6)
	43	13	7	12	2		79	▲18	60	3.4
食品事業	69 (▲15)	34 (▲4)		46 (5)	4 (0)		154 (▲14)	▲1 (▲0)	153 (▲15)	5.7 (▲1.0)
	85	38		41	4		169	▲0	168	6.7
ファイン 事業	10 (8)						10 (8)	▲0 (0)	10 (8)	12.5 (10.1)
	2						2	▲0	1	2.4
物流事業	11 (▲0)						11 (▲0)	0 (0)	11 (▲0)	13.7 (▲1.1)
	12						12	0	12	14.8
その他 事業	2 (▲0)				0 (0)		3 (▲0)	1 (1)	4 (0)	6.4 (1.4)
	3				0		3	▲0	3	5.0
全社経費						▲53 (▲4)	▲54 (▲4)	0 (0)	▲53 (▲4)	
						▲48	▲49	0	▲48	
仮計	153 (6)	58 (6)	▲10 (▲18)	61 (7)	6 (0)	▲54 (▲4)	214 (▲2)			
	146	52	7	54	6	▲49	217			
連結調整	▲2 (5)	▲0 (4)	3 (6)	▲3 (▲0)	▲0 (▲0)	0 (0)		▲3 (16)		
	▲8	▲4	▲3	▲2	▲0	0		▲19		
連結 計	150 (12)	58 (10)	▲7 (▲11)	58 (6)	6 (0)	▲53 (▲4)			211 (13)	4.2 (▲0.2)
	138	47	3	51	6	▲49			197	4.4

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　セグメントマトリックス　営業利益率（前年同期比）

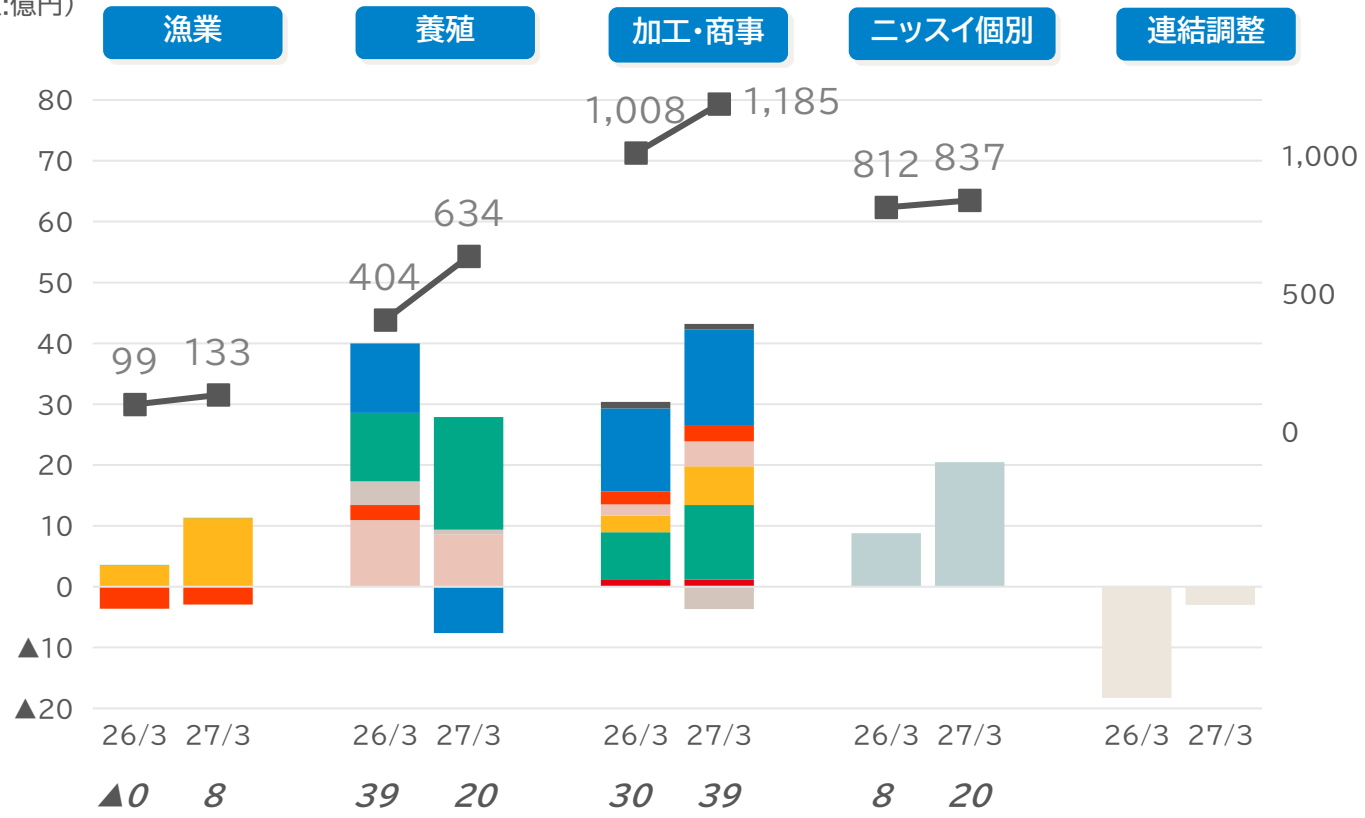
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結 計
水産事業	4.5% (0.9pt)	4.5% (1.3pt)	▲2.9% (▲6.7pt)	2.8% (0.0pt)	5.5% (▲0.0pt)	3.2% (▲0.2pt)	4.0% (0.6pt)
	3.6%	3.2%	3.9%	2.8%	5.6%	3.4%	3.4%
食品事業	4.3% (▲1.0pt)	5.1% (▲1.4pt)		9.1% (▲0.4pt)	5.8% (▲0.9pt)	5.4% (▲0.9pt)	5.7% (▲1.0pt)
	5.3%	6.5%		9.5%	6.8%	6.3%	6.7%
ファイン 事業	11.1% (8.2pt)					11.1% (8.2pt)	12.5% (10.1pt)
	2.9%					2.9%	2.4%
物流事業	6.8% (▲0.6pt)					6.8% (▲0.6pt)	13.7% (▲1.1pt)
	7.4%					7.4%	14.8%
その他 事業	3.3% (▲0.2pt)				30.0% (10.0pt)	3.6% (▲0.1pt)	6.4% (1.4pt)
	3.5%				20.0%	3.6%	5.0%
仮計	4.6% (0.0pt)	4.9% (▲0.3pt)	▲2.9% (▲6.7pt)	5.9% (▲0.2pt)	6.0% (▲0.4pt)	3.6% (▲0.5pt)	
	4.6%	5.1%	3.9%	6.1%	6.4%	4.0%	
連結 計	5.4% (0.3pt)	5.4% (0.0pt)	▲4.5% (▲10.6pt)	5.7% (▲0.2pt)	17.0% (▲0.6pt)		4.2% (▲0.2pt)
	5.2%	5.4%	6.0%	5.8%	17.6%		4.4%

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　水産事業　売上高・営業利益（前年同期比）

（単位:億円）



営業利益（棒グラフ）

売上高（折れ線グラフ）

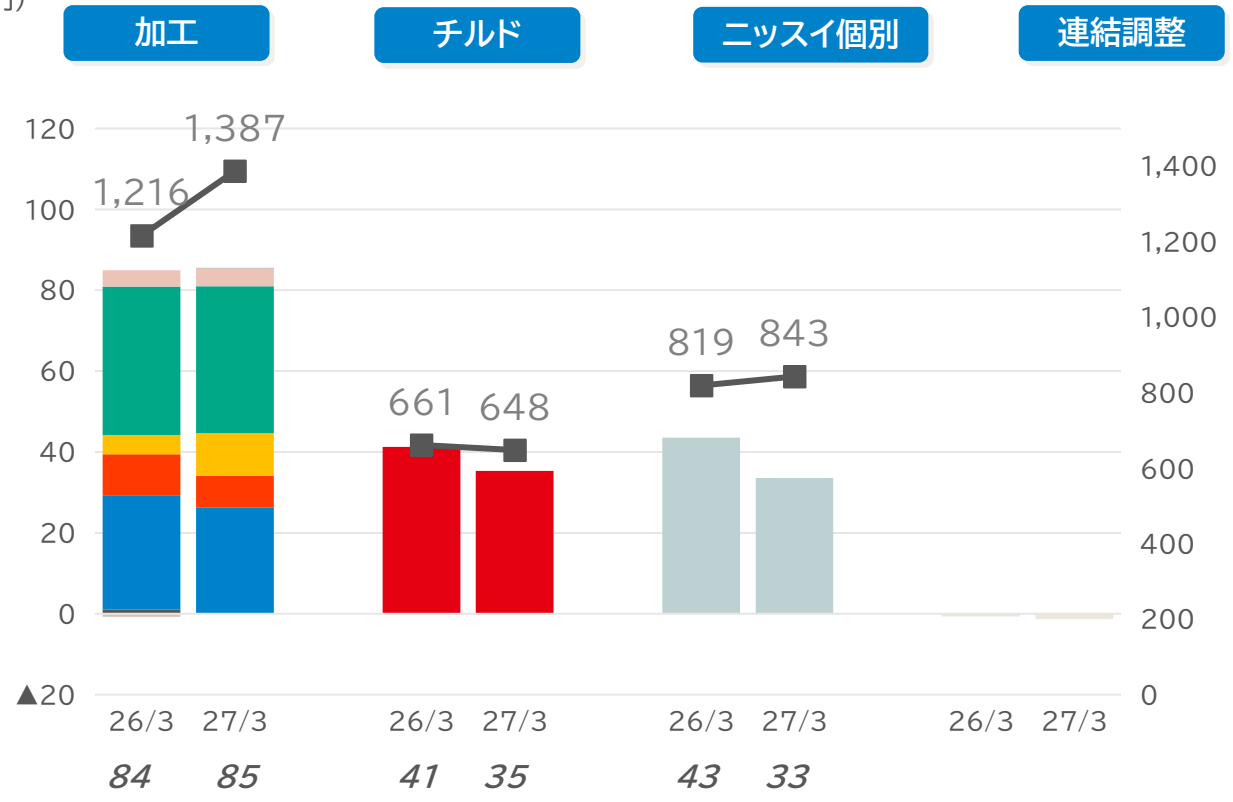
※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

© Nissui All Rights Reserved.

2027年3月期 中間期　食品事業　売上高・営業利益（前年同期比）

（単位:億円）



営業利益（棒グラフ）

売上高（折れ線グラフ）

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

© Nissui All Rights Reserved.



© Nissui All Rights Reserved.